

RX-78 'GUNDAM'

U.N.T.SPACY PROTOTYPE CLOSE-COMBAT MOBILE SUIT

© 創通エージェンシー・サンライズ



HG

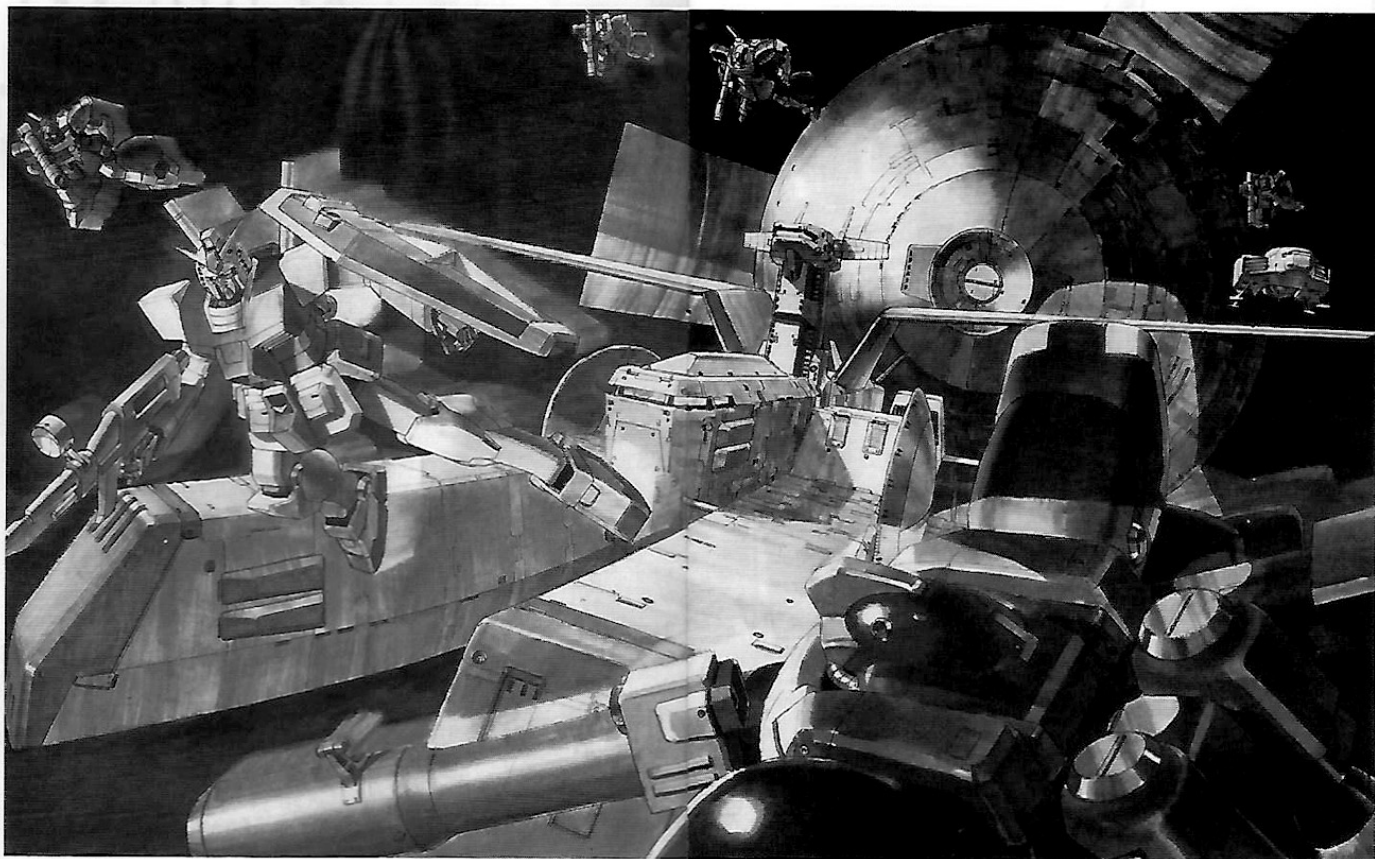
保存版

 1/144 RX-78「ガンダム」HG

Designer, Kunio Ohgawara. He has made another design newly for us. And -- BANDAI has just embodied his draft in plastic models. We did every technique we could do. Now his arts are coming true and moving -- full color mold, M.S. joint, Snap kit. -- when you open the box, you know another great GUNDAM from BANDAI.

**BAN
DAI**

BANDAI 1990 MADE IN JAPAN



▲ラグランジュ5に位置するサイド6宙域で、交戦に突入する直前のRX-78。同サイドは中立区域なので、包囲しているコンスコン隊のMS-R09「リック・ドム」は発砲出来ない。(写真右ノ

端には、サイド6検察官の小型艇が確認出来る。)この交戦でRX-78は素晴らしい反応速度を見せ、1個戦隊(12機)のMS-R09の内、9機を撃墜。結局、コンスコン隊は3分で全滅している。

「たった1機のMSが、ミリタリーバランスを豹変させた。」

(大いなるジオンの誤算。リドル・ジョミニ著 フィールドブックス刊～

序文より抜粋)

歴史上に「もしも」はつきものであるが、連邦軍の「V作戦」を奇襲したジオン公軍機動部隊が「もしも」手早くそれを駆逐せしめていれば、公軍は「圧倒的優位」という虚構のヴェールを被ったまま勝利を得ていただろう、というコンセンサスを見るのは誠明らかな事だ。

それ程までに、RX-78「ガンダム」たった1機による活躍が同軍のミリタリーバランスを豹変させ、そしてレビル將軍のあの有名な「ジオンに兵なし!」という言葉を実証する事に繋がっていったのである。

■モビルスーツ誕生の背景

ジオン公国のT.Y.ミノフスキー博士により提唱され立証されたミノフスキー物

理学は、それ迄の在来兵器を一挙に過去の物とし、近代戦の様相を一変させる事となった。ミノフスキー粒子散布技術の言及は、通常の電波を利用する通信・誘導・索敵を不可能とした為、戦術は旧世紀の有視界戦闘の時代へと逆行した。そして、その状況下で考案された「人型」の機動兵器、通称「モビルスーツ」によって前線は溢れ返った。しかし、連邦軍がそれに本格的に着手するのは、ジオン軍のMS-06「ザク」との交戦による痛手を受けた後の事であった。

ジオン軍は一早くこのモビルスーツ(以下MSと記す)開発に乗り出し、5年にも及ぶ歳月を費やしてその突飛なるプランを実用へと導いた。何より大きかった

のは、その問題となったミノフスキー物理学そのものの応用により、熱望されていた熱核反応炉が完成を見た事であろう。これによりMSは、従来の原子炉に比して極めて小型で高出力の主機を得るに至ったのである。

U.C.(宇宙世紀)0078年、ジオン軍は本格的な汎用MS、MS-06の量産に着手し、開戦に備え始めていた。

■「V作戦」始動、RX-78の誕生

U.C.0079年1月、ジオン軍と連邦軍の最初の交戦は、ジオン軍の圧勝に終わった。圧倒的なまでの物量を有した連邦軍であったが、前世紀の大艦巨砲主義を基本とする艦隊は、MSを主体とするジオン軍機動部隊には大した効果を持たなかった。

連邦も黙ってジオンのMS開発を見守っていた訳ではない。

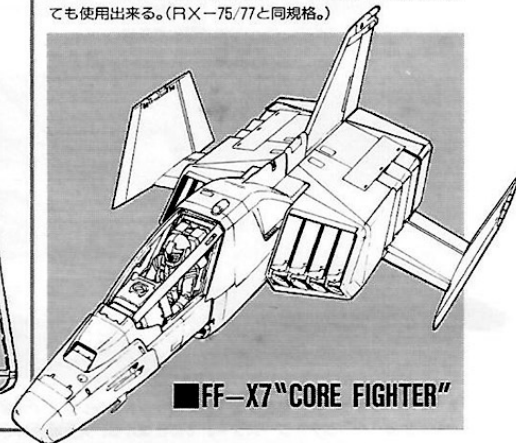
ザク捕獲後、連邦軍のMS開発技術は飛躍的に進展した。連邦軍は、自己学習型コンピューターの開発やエネルギーC.A.P.の実用化においてジオン軍に対して一日の長があり、ジオン軍MSとそれらの技術の結合が、高性能MSを生み出す土壌となった。

この自己学習型コンピューターは当然ながら極めて高コストで、又、順次戦闘によってバンクされていくデータも大変貴重な物であった。この為、MS本体が極度のダメージを受けた場合、パイロットと共にこのコンピューターを回収するシステムが必要視された。(P.5に続く)

RX-78 "ACCESS HATCH FULL OPEN"

◀機体各所に設けられた点検用ハッチをフル・オープン状態にした、整備中のRX-78。この写真はモスク・ハン博士の開発班によりマグネット・コーティング終了時に撮られたものであり、全てのハッチが開いた状態の全身写真としては唯一の貴重なショット。ジオン軍のMSは各関節部の駆動に流体内部バルスシステムを採用していたが、RX-78ではフィールドモーターと呼ばれる新型モーターが使用されていた。これは1フィールドとミノフスキー粒子の相互作用を利用したシステムであり、このミノフスキー物理学の応用を進展させた形で、マグネット・コーティング理論が生まれている。(写真でも、膝部ユニットの隙間からフィールドモーターが判別出来る。)ジオン軍のMSが多目的汎用宇宙機であったのに対し、連邦軍のそれは完全なる対MS戦専用機であった。この写真からでも、そのユニット構成が白兵戦向きなのが窺えるであろう。

▼RX-78の中核である、コア・ブロック・システムの飛行形態。コア・ファイターと呼ばれ、コックピットと中央コンピュータを回収する為の脱出モジュールだが、軽戦闘機としても使用出来る。(RX-75/77と同規格。)



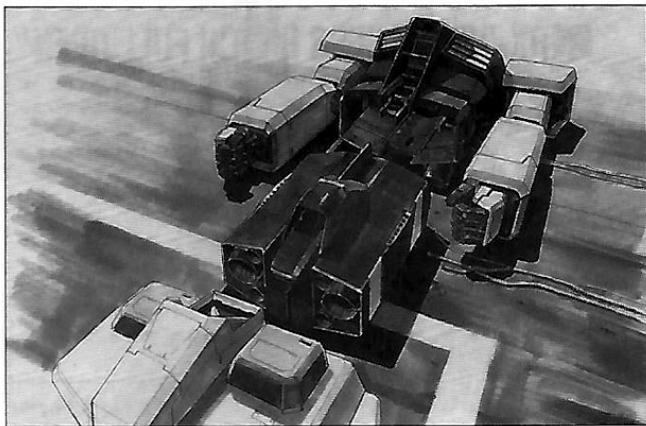
■FF-X7"CORE FIGHTER"

■ガンダム世界用語の基礎知識①

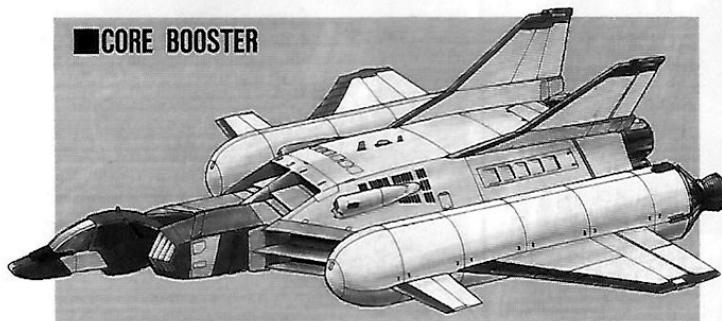
※1……静止質量が殆んどゼロで正か負の電荷を持つ粒子。同粒子の発見は、大統一論にも大きな衝撃を与え、素粒子物理学にピリオドが打たれたと言われた程だった。散布されると特殊なフィールドを形成し、フィールド内では電波障害が起さる。その為一年戦争中には戦略的な目的で、両軍に大量に使用された。同粒子の物理学と応用技術は様々な軍事技術の発展を促し、メガ粒子砲や反重力にも似たミノフスキー・クラフト等も開発された。ミノフスキー物理学の祖、T.Y.ミノフスキー博士は戦争を防止する為U.C.0072年に連邦に亡命し、エネルギーCAPの開発等に技術協力をしている。

※2……MSの歩行・戦闘・作業等、様々な状況に応じてプログラムを変更して成長していく自己教育型コンピューター。データが十分に蓄積されたプログラムを移植すれば、新兵でもベテランパイロット並のMS操縦を可能とした。

※3……メガ粒子砲の性能を維持したまま小型化したもの。ミノフスキー粒子が縮退してメガ粒子になる直前の状態で保持・蓄積する装置で、この状態からであれば、MSに可能な範囲内の電力供給でメガ粒子を発生させる事が出来る。



▲コア・ブロック・システムを挟み込む形で、Aパーツ(上半身)とBパーツ(下半身)が装着されるのがわかるショット。同システムは特筆すべき生存性と運用性を兼ね備えた連邦軍技術の結晶であったが、高コスト故にRX-78の量産機RGM-79“GM”では、廃止されている。



▲コア・ファイターに、熱核ジェット・ロケットエンジンとメガ粒子砲2門を搭載したブースターを装着した、コア・ブースター。その仕様から、大気圏内外での使用を可とする戦艦機。

この目的の為に開発されたのが、コア・ブロック・システムである。同システムは、他の連邦軍MSと互換性を持たせていた上、コア・ファイターと呼ばれる小型戦艦機に変型する事さえ可能とした。加えて、先述のエネルギーCAPの実用化は、MS初のビーム兵器の携行化を意味し、連邦のMSは機動力・自己学習能力に加えて、それまでの戦艦並の火力をも有する事に成功したのである。

こうして連邦軍の技術の粋を集結したMS開発とその運用計画である“V作戦”は、計画開始3ヶ月、開戦からわずか6ヶ月にして、目的を達成させた。そしてその“V作戦”の中核を成したのが、白兵戦用MS・RX-78“ガンダム”であった。

■RX-78の未知なるポテンシャル

連邦軍の“V作戦”は、ジオン公国(サイド3/ラグランジュ2)から最も速く離れたサイド7(ラグランジュ8)で行なわれたが、前述の奇襲により大損害を被

った。しかし、残存したMSとその予備パーツは、同“V作戦”の一端であるMS運用対応型最新鋭強襲宇宙揚陸艦、ベガス級一番艦“ホワイトベース”に収容/配備され、徐々に、その潜在的な能力を実戦で証明し始めた。

史上初のMS同士の間で交戦はサイド7のスペースコロニー内であったが、ジオン軍に正式な記録として残されている「史上初のMS同士による交戦」は、サイド7宙域での宇宙空間での戦闘である。その際、ジオン軍に対し大きな奇襲を与えたのが、ビームライフルの存在であった。ジオン軍はそれまで、MS同士による交戦を予測した戦闘データをザクに入力してはいたが、MSのビーム兵器携行は予想外の事であった。ジオン軍技術陣はエネルギーCAPの実用化に向けて全力を注いだ。それが実戦配備されるのは終戦間近、MS-14“ゲルググ”のロールアウトまで待つ事になってしまう。

WEAPONS

■BEAM RIFLE

■HYPER BAZOOKA

■SHIELD plus OPTIONS



“V作戦”は、MSのオプション面においても充実した内容を誇っていた。その筆頭に挙げられるのは、何と言ってもエネルギーCAPの実用化によるビームライフルの携行と、同技術の応用によるビームサーベルの標準装備だろう。この両ビーム兵器に対して、ジオン軍MSは防衛手段を持てず、同軍がエネ

ギーCAPを実用化するまでは決定的なまでのアドバンテージとなった。その他では380mmハイパーバズーカが有名な火器だが、装弾数が少ない為、腰後部ラッチに装着してビームライフルの補助火器として使用するケースが多かった。シールド裏面には、ビームライフルや、予備のビームサーベルが装着出来た。

ガンダムを中心とする“V作戦”のMS群は、衛星宇宙基地ルナ・ツーに交戦データをはじめとする各種データを残し、地球へと降下した。

大気圏内でもガンダムは驚異的な運動性を見せ、特にスラスター噴射をしたままのMSの空中戦という、それまでは考えられなかった戦術をも実戦をもって示した。このガンダム/ホワイトベースはレビル将軍が指揮を取るオデッサ作戦に編入され、充分満足のいく戦果を上げた。特に、ルウム戦役ではレビル将軍を捕虜にまでした“黒い三連星”の駆る最新鋭機MS-09“ドム”をも沈めた事は、メンタルな部分でジオン軍に対し大きな打撃を与えた。

その直後ガンダムは、連邦軍総司令部である南米基地ジャブローに到着した。この時すでに、ジャブローではガンダムの簡易量産型であるRGM-79“GM”がルナ・ツーのデータにより完成しており、

連邦軍は遂にMSの大量生産に踏み切った。この際、ガンダムは大量のデータをジャブローに残し、大戦末期宇宙空間に使用された後期生産型GMは、前期生産型以上の性能を持つに至っている。

■サイコミュ兵器の登場

ジオン軍のMS群に対し、大きなアドバンテージを示したガンダムであったが、ジオン軍が開発したサイコミュ兵器の登場により、反応速度向上が必要視された。モスク・ハン博士の理論に基づき、各関節駆動系にマグネット・コーティングが施されたガンダムは、AMBACシステムとの併用によりこれを解決している。

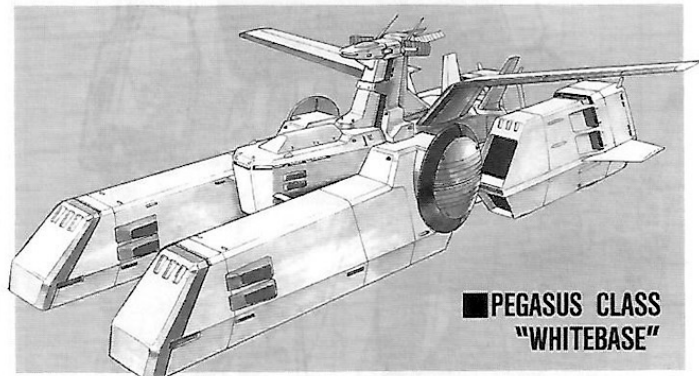
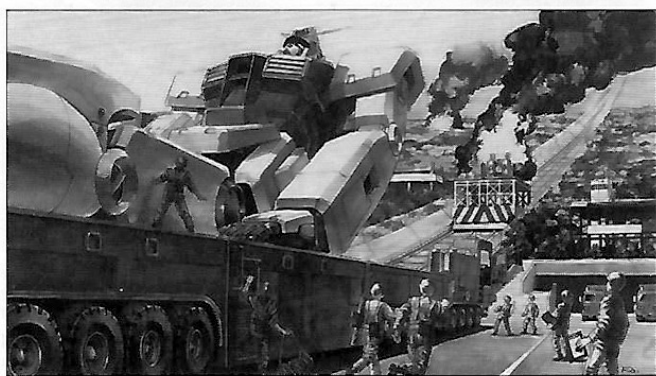
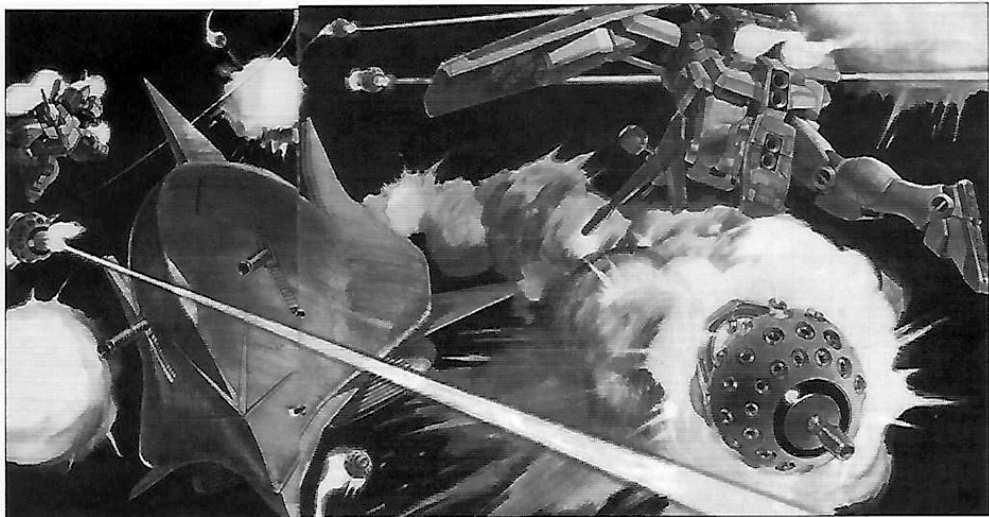
ガンダムはジオン軍のサイコミュ兵器MAN-03“ブラウ・ブロ”、MAN-08“エルメス”、MSN-02“ジオング”との交戦記録が残っているが、ジオングと相討ちにはなったもののこのどれをも退けている。これは、大戦を通じてガンダムのパイロットであり続けたアムロ・レイ

■“A YEAR WAR”

▶ジオン軍究極のサイコミュ兵器と言われた、MAN-08“エルメス”と交戦中のRX-78。無線誘導式の無人随伴攻撃機“ビット”のオールレンジ攻撃を奇跡的なタイミングでかわし、あたかもその“ビット”の動きが続めるかの如く次々とビームライフルで撃破していく。このMAN-08機の為に連邦軍のサラミス級巡洋艦/マゼラン級戦艦計7隻、MS6機が墜とされ“ソロモンの亡霊”とまで呼ばれていた。

▲(右下)RX-78が搭載されていた、連邦軍の強襲宇宙揚陸艦ベガス級1番艦。ジオン軍はその奇異な形状から“木馬”のコードネームで呼んだ。連邦軍の“V作戦”の一環から生まれた、連邦初のMS運用艦であり、最大3個小隊(9機)のMSと、その周辺機器の搭載を可能とした。又、推進機関は熱核ロケットとミノフスキー・クラフトとのハイブリッド・タイプで、単体での大気圏内離脱・再突入能力を有する。火薬式主砲1門、メガ粒子砲2門を装備。

▼ジオン軍機動部隊の奇襲を受け、急遽出撃を余儀なくされるRX-78。この際行きがかり上RX-78に乗り込んだ民間人が後のアムロ・レイ少尉である。



■PEGASUS CLASS
“WHITEBASE”

少尉の技量に負う所も大だった様である。

同少尉はジオン軍のシャア・アズナブル少佐と並び称される一年戦争屈指の名パイロットであり、サイコミュ兵器との交戦に唯一対応出来るパイロットでもあった。俗に嘲笑される“ニュータイプ”能力を連邦軍内に数字で示した走りでもあり、ニュータイプを信ずるか否かは別としても、その戦果と技量は特筆に値する事は紛れも無い事実であろう。

■終戦とRX-78撃破

ガンダムをはじめとするホワイトベースは、ティアム艦隊所属第13独立部隊として活躍を続け、大戦は終局を迎えつつあった。ソロモン攻略によってア・バオア・クー進攻の足掛かりをつかんだ連邦軍は、“星一挙作戦”と呼ばれるア・バオア・クー攻略戦に乗り出した。

しかし、ジオン軍のソーラー・レイ・システムによりレベリル將軍の旗艦を含む連邦艦隊はその1/3を失ない、ホワイト

ベースは残存艦で編成されたルザル艦隊の中軸として最終決戦に臨んだ。

ジオン軍はこのア・バオア・クーがもし墜ちようものなら本国決戦も有りうる覚悟で臨んだが、総指揮を執ったギレン・ザビ総帥、その後を継いだキシリア・ザビ少将が相次いで戦死し、実質的な最終決戦となった。

このア・バオア・クー攻防戦において、ガンダムを含む“V作戦”の残存兵器その全てが撃破され、そして終戦を迎えている。しかしガンダムは、撃破されるまで連邦軍MS中最大の戦果を上げ、連邦軍技術陣のMSへのコンセプトが正しかった事を身をもって証明したのである。

(この文章は、一年戦争終結後のU.C.0081年にフィールドブックスより発行された同書より抜粋・要約したものです)

■ガンダム世界用語の基礎知識②

※4……軌道安定点、準安定点。地球・月系で人工衛星がとりうる軌道のうち、安定点が2点、準安定点が3点あり、これら5点を総称してラグランジュ・ポイントと呼ぶ。これらの点はスペース・コロニーを建造するポイントとしては比較的向いていると言える。

※5……姿勢制御の為に機体各所についているバーニア・ロケットではなく、この場合メイン・ロケット(スラスター)を噴射する事を指す。

※6……いわゆるニュータイプが継続的な緊張状態に於いて、“感應波”と呼ばれる特殊な精神波を発する事はよく知られている。これは一年戦争中、ジオン公団に協力していたリサ・コロニー(サイド6)のフラナガン機関によって発見されたものである。サイコミュとは、ニュータイプから発せられる感應波を、受信(機械語に)翻訳する事を指す。これにより反応速度が飛躍的に向上すると同時に、多数の機体を操作可能とした。複数の有線制御式メガ粒子砲台や無線誘導式の無人随伴攻撃機“ビット”の機動・姿勢制御を行ないながら、四方八万からの複合攻撃(オールレンジ攻撃)を実現化した。

※7……RX-78の関節駆動系は、フィールド

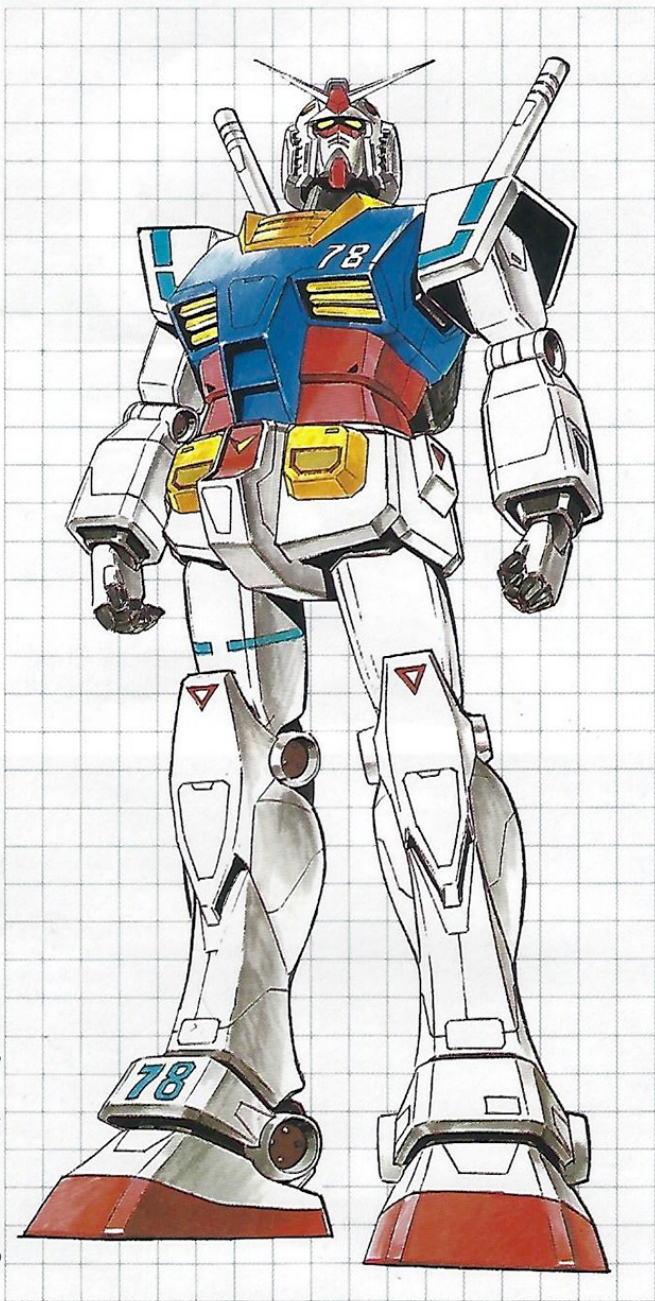
・モーターと呼ばれるミノフスキー物理学の応用されたアクチュエータが使用されたが、後に機体レスポンスを高める為にマグネット・コーティングを施した。これはフィールド・ロスを減らし、時定数を高めようとするもので、姿勢転換に要する時間は、27%短縮された。

※8……MS以前の宇宙機は、姿勢を変化させるのにバーニアを動作させ推進剤を消費していた。しかし戦闘中にこの方法で方向転換や回避運動を行なうには、膨大な推進剤が必要となる。そこでAMBAC(アンバック)システムという能動的質量移動による自然姿勢制御の方法を実用化した。これは機体の一部分がその反作用を受けて逆に移動する性質を利用して、姿勢を制御しようというものである。宇宙空間では無駄になると考えられていた腕と脚は、デッド・ウェイトどころか推進剤の消費無しに姿勢制御を行なう有効な手段として働く事となった。

※9……サイド3特有の密閉型ベースコロニー1基をまるごと改造した直径6.5kmのレーザー砲。一年戦争末期、ジオン軍は大きく傾いた戦局を打開する為の最終兵器として総力をあげて開発した。パワー・ソースは、大量の太陽発電衛星を使用する。

●この設定イラストは、メカ・デザイナーの大河原邦男氏がHGモデル用に新たに描き起したものです。

FRONT VIEW

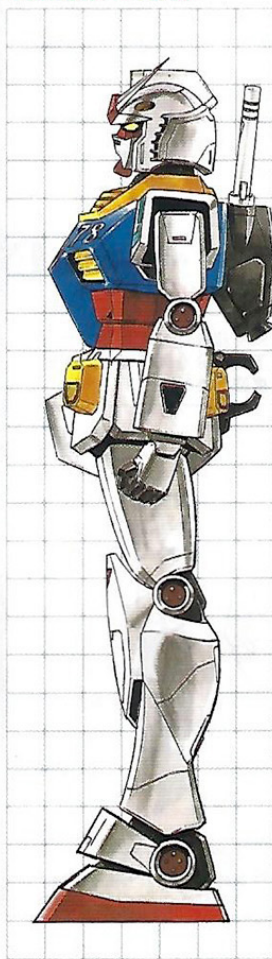


Original Design by Kunio Ōkawara

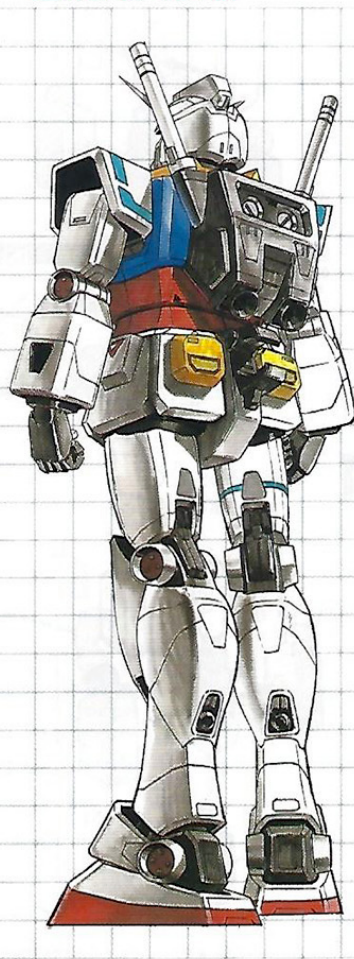
全高：18.0m 頭頂高：18.0m
 本体重量：43.4t 全備重量：60.0t
 パワージュネレーター出力：1,380kW
 移動用ロケット総推力：55,500kg
 センサー有効半径：5,700m
 装甲材質：ルナ・チタニウム複合装甲

固定武装：60mmバルカン×2
 ビームサーベル×2
 オプション：ビームライフル
 270mmバズーカ

SIDE VIEW



REAR VIEW



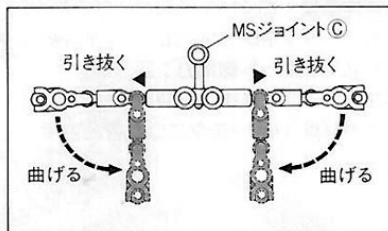
組み立てる時の注意

- この商品は、接着剤を使わずに組み立てられるスナップフィットモデルです。
- 組み立てる前に説明図をよく読みましょう。
- 部品は、番号をたしかめ、ニッパーなどできれいに切りとりましょう。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。

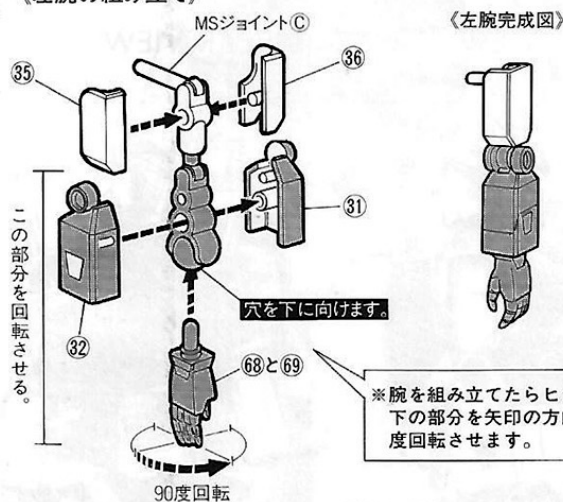
■MSジョイントII・取り扱い上の注意

※ジョイントは、組み立てる前に、関節の曲げのばしをして下さい。

- MSジョイントCの肩の部分から関節部を引き抜いておきます。

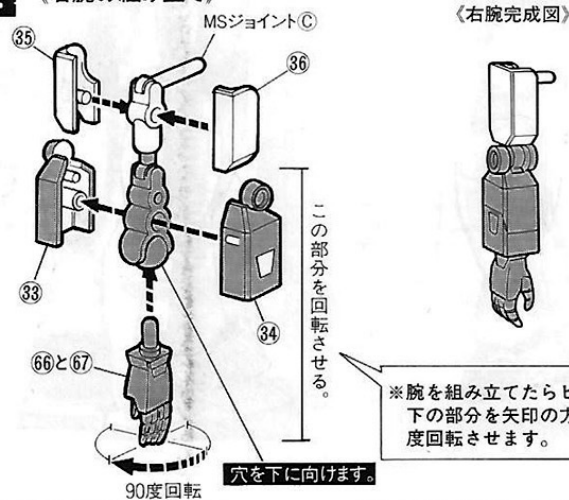


1 《左腕の組み立て》



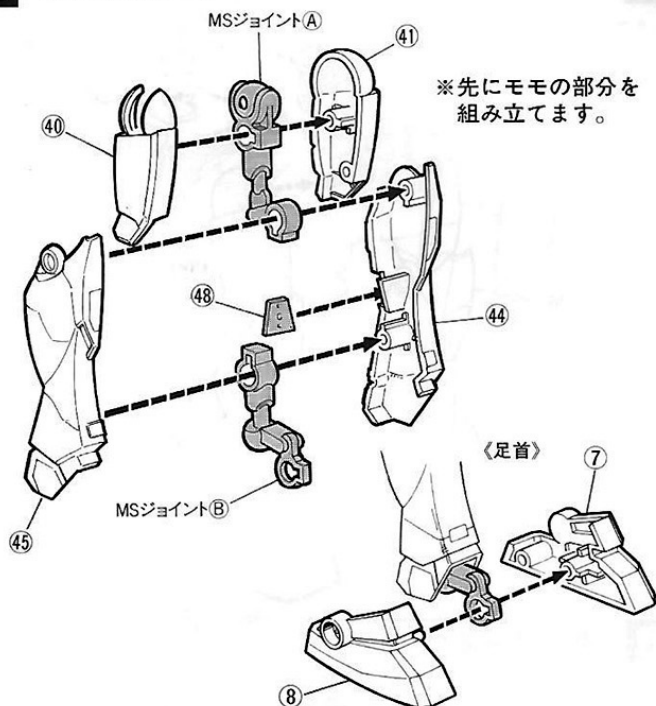
※腕を組み立てたらヒジから下の部分を矢印の方向へ90度回転させます。

2 《右腕の組み立て》



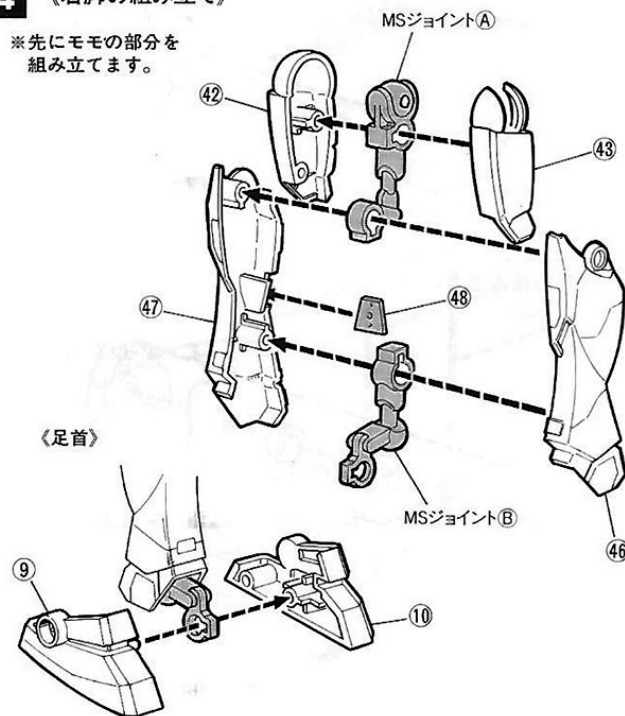
※腕を組み立てたらヒジから下の部分を矢印の方向へ90度回転させます。

3 《左脚の組み立て》



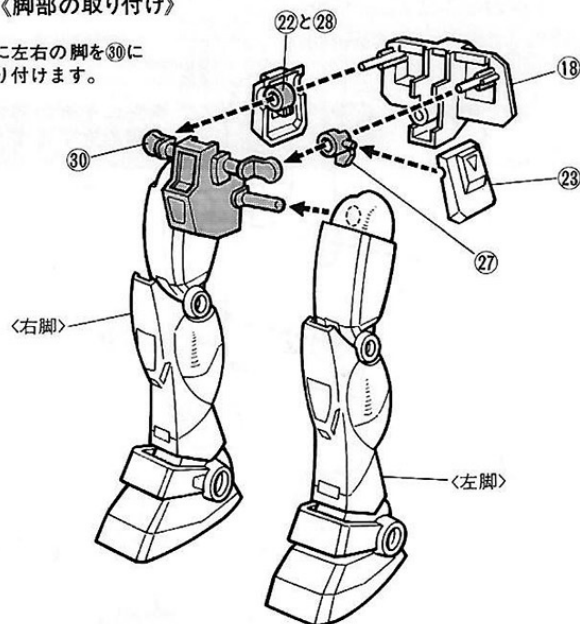
4 《右脚の組み立て》

※先にモモの部分を組み立てます。

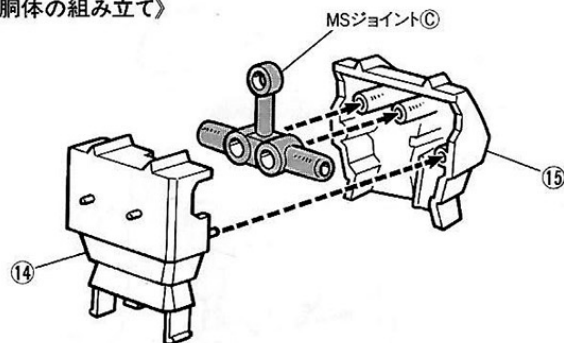


5 《脚部の取り付け》

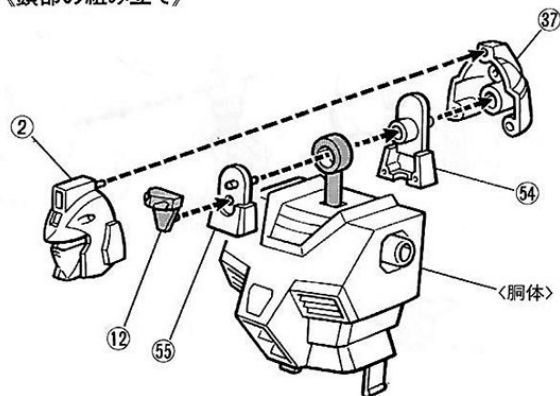
※先に左右の脚を③⑩に取り付けます。



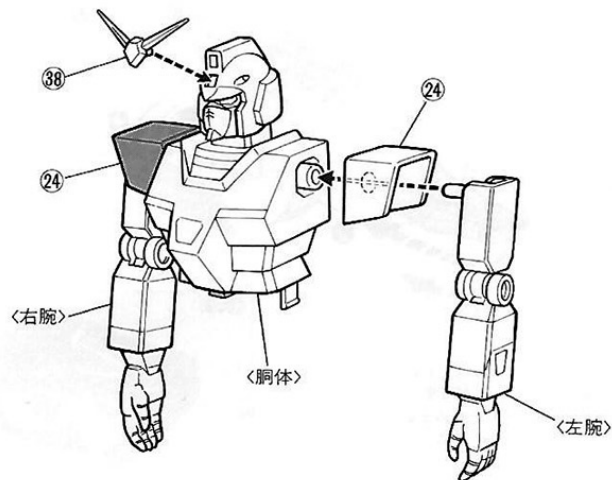
6 《胴体の組み立て》



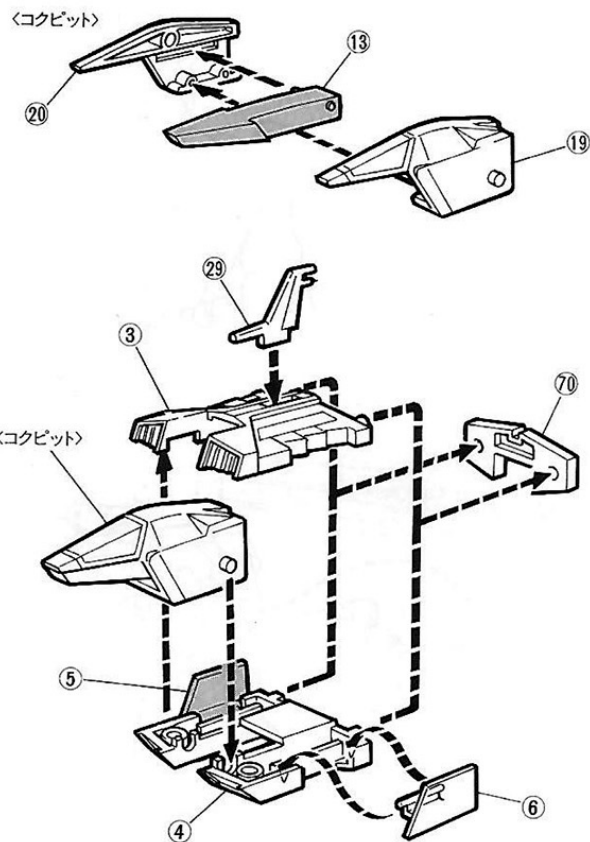
7 《頭部の組み立て》



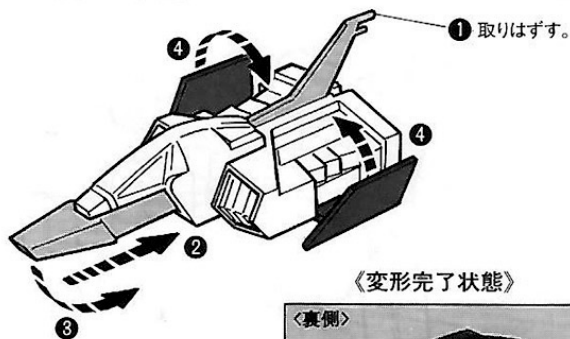
8 《腕の取り付け》



9 《コアファイターの組み立て》



10 《コアブロックへの変形》

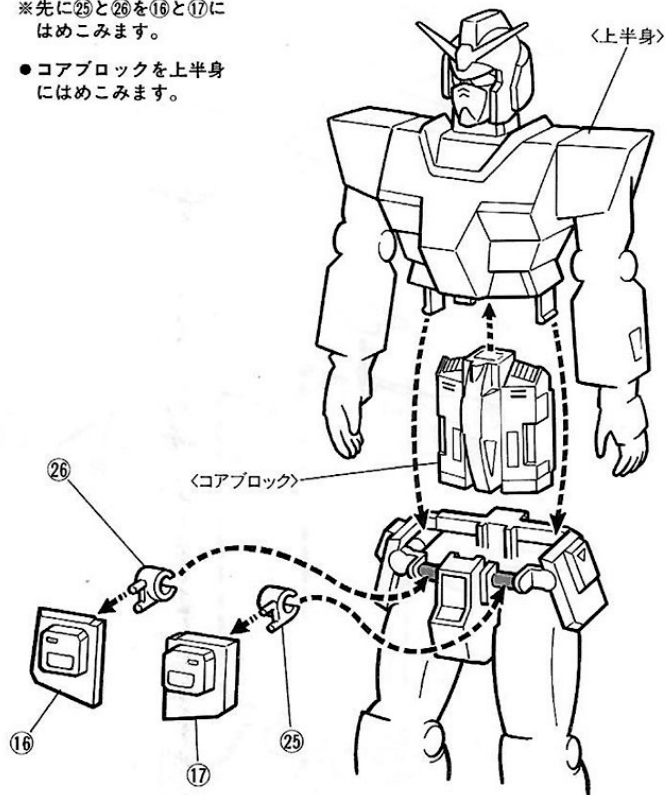


- ① 尾翼を取りはずします。
- ② 機首を引っこめます。
- ③ 機首を折りたたみます。
- ④ 羽根を折りたたみます。

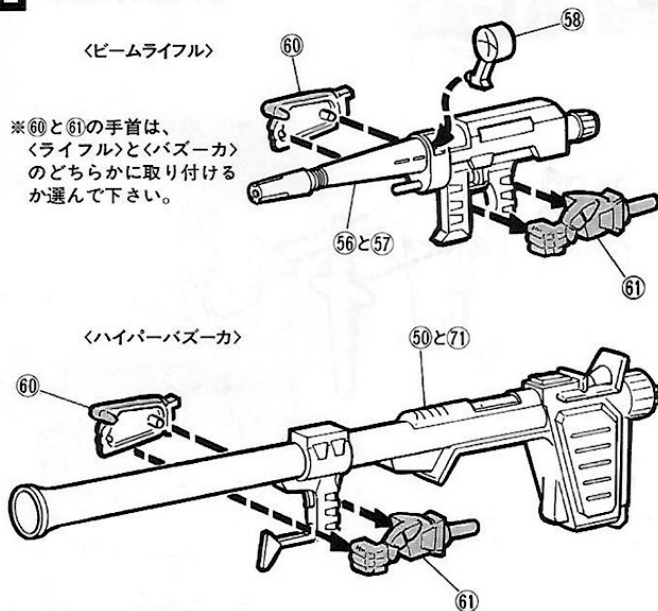
11 《本体完成》

※先に②⑤と②⑥を①⑥と①⑦にはめこみます。

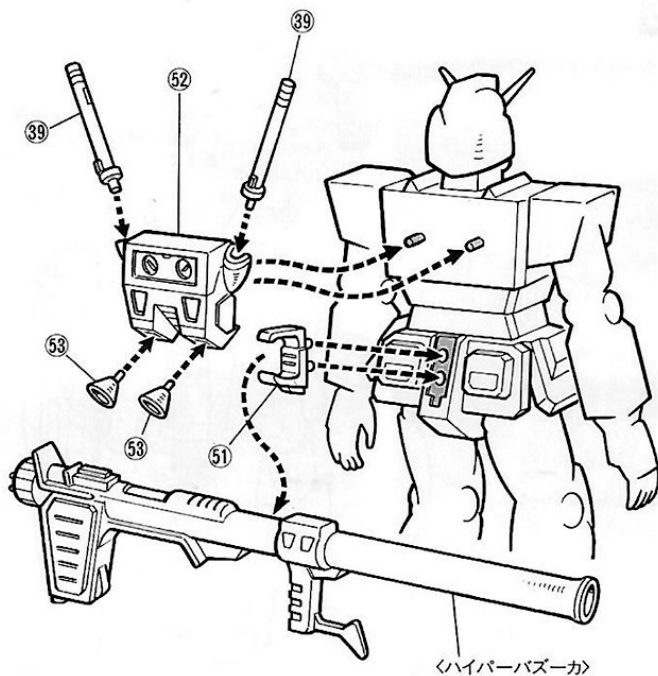
- コアブロックを上半身にはめこみます。



12 《武器の組み立て》

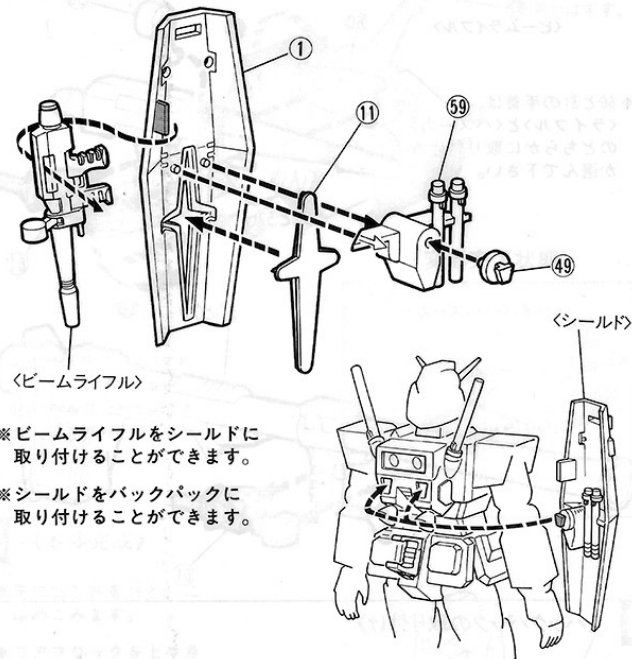


13 《バックパックの取り付け》



※〈ハイパーバズーカ〉を取り付けることができます。

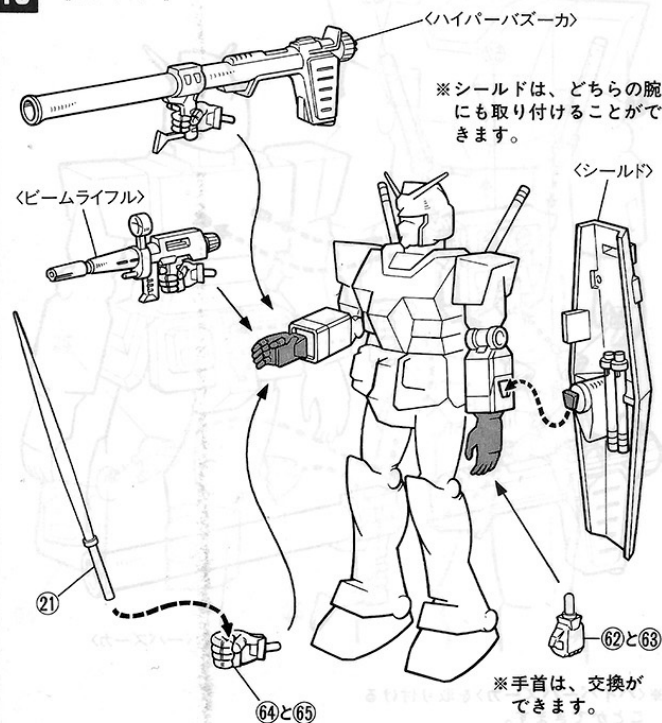
14 《シールドの組み立て》



※ビームライフルをシールドに取り付けることができます。

※シールドをバックパックに取り付けることができます。

15 《オプション》



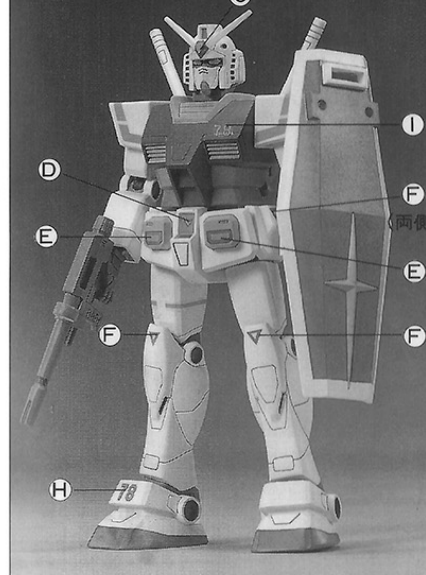
※シールドは、どちらの腕にも取り付けることができます。

※手首は、交換ができます。

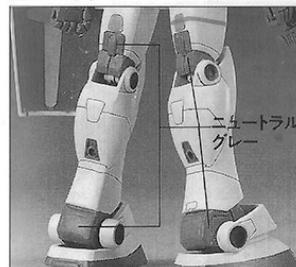
シール&ペインティング

■君のガンダムが少しの塗装でリアルに仕上がります。(カラー写真を参考にして下さい。)

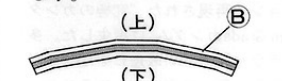
※(A)～(I)はシールです。



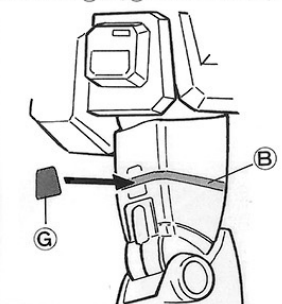
関節部分をニュートラルグレーで塗ります。



※先にシール(B)を右モモにはります。



●シール(G)は、(B)の上にはります。

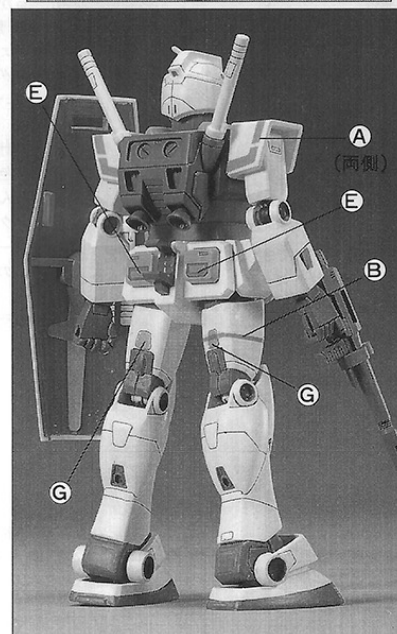
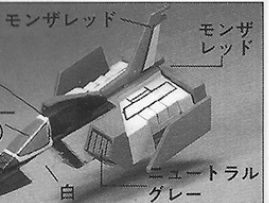
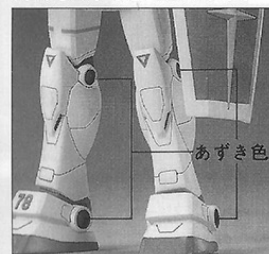


バルカン砲内側:黒
外側:黄橙色

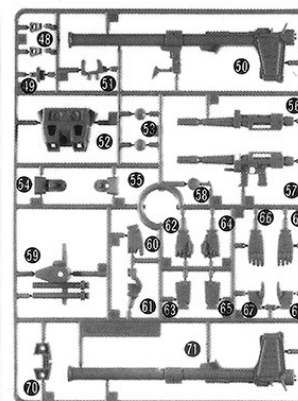
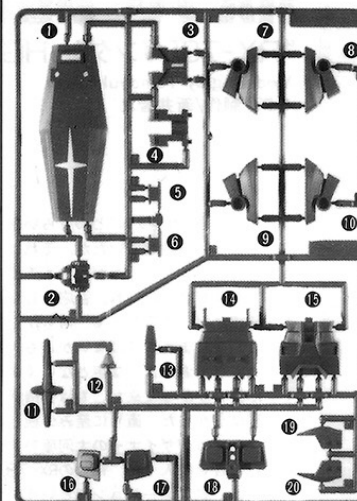
目のフチ:黒
頭部カメラ:コバルトブルー
細部:黒でしめします。



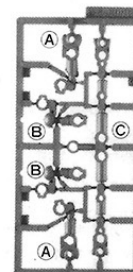
内側をあずき色で塗ります。



パーツリスト



《MSジョイント2》



●シール……1

★この製品は、多色・異材射出成形機により生産されたものです。(特許出願中)

部品をこわしたり、なくした人には実費にて部品をおわけします。「部品注文カード」に必要な部品の番号・数量をはっきり書いて切り取り、部品代金(部品代+当社からの郵送料)を郵便で(料金の安い定額小為替も可)で右記の当社お客様相談センターまでお申し込みください。部品代は、右記の表のとおりです。(郵送料は120円です)郵便為替は、この部品代金の他に、為替料金が加わりますのでご注意ください。

部品数が多くて、郵送料120円をこえる時は不足分を請求させていただきます。120円以下の時には、残額をお返します。お送りする部品の形状・数量により郵送料が変わります。もし部品に不良がございましたら、その部品を切り取り、その部品の商品名を書いて当社までお送りください。良品と交換させていただきます。

部品・番号	部品代	郵送料
①・③・⑤	60円	120円
その他の部品	40円	

■申し込み先
静岡県清水市西久保305 千424
株バンダイ静岡工場
お客様相談センター・部品係
TEL 0543-65-5315

部品注文カード 90/3-1000
HG1/144 RX-78ガンダム
必要な部品の番号・数量を書く
●部品の注文は「郵便為替」(定額小為替でも可)でお申し込みください。

とりあえず 作ってみよー!!

■ガンダムの2つの楽しみ方

Writing: Y. Egami (BANDAI)

プラモデルを買って来てくれてありがとう。このガンダム（ガンダムのプラモデルのことだよ）の楽しみ方は大きく分けて2つあると思う。ディスプレイ（Display: 見せる）指向と、アクション（Action: 動かす）指向だ。ディスプレイの方はこのページや、模型誌などの作例にあるように、キットをきれいに作ったり、キットと設定画を突き合わせて「本当に有ったらかんのだらうな〜」と、自分なりのイメージを盛り込んでディティールアップしていく楽しみ方だ。この作例や、パッケージのイラスト、戦車や飛行機の写真を参考にイメージをふくらませていくって欲しい。テクニクなどもこのシリーズで順次紹介していくよ。お楽しみに！

では、もう一つの楽しみ方、アクションについて考えてみよう。アクション、つまり実際に動かして遊ぶことだ。バキューン/ズダダ〜とネ。バカにしちゃいけない。これがスゴク面白いんだ。たとえばガンダムが実際にあるとすれば、だいたい4〜5階建ての建物ぐらいの高さがある。コックピットの高さは3〜4階くらいだ。キットを動かしながらこの大きさのロボットを操縦している自分を想像してごらん、ワクワクしてこないか？

キットと比べると、ホワイトベースなんかタンスぐらいの大きさがあるんだぜ！

つい最近までキットの成形色は1色か2色だった。だから自分で色を塗らないとそれらしくならなかったんだけど、遊ぶところすれすれの色がハゲてしまったり、思ったほど関節が動かなかったりして、いまひとつだった。しかし、このキットは多色成形（注1）でほとんど色が入っている。色がハガれる心配はない。また、関節に入っているMSジョイント（注2）で足なんかホントによく動くソ！

さあ、君もガンダムを動かしてみようよ!!

RX-78 'GUNDAM'

“RX-78「ガンダム」HG誕生”

Modeling by Tomoyuki Arai
モデル制作/新井智之

“究極のRX-78ガンダム”どのくらい多くのファンに渴望されていたか。それはガンダムのバリエーションが、増える度に、そして年月が経つにつれ、否応なしに大きな波紋となって広がって、何もかも呑み込んでしまおうのではないかととも思われる大きな津波のような声となってスタッフに襲いかかって来た。もはや躊躇する時間はなかった。直ちに産みの親ともいべきメカデザイナーの大河原邦男氏との打ち合せに入った。初代のRX-78ガンダムは、アニメーションだという前提のもとで進行作成された。だから、当時から詳細なディティールの入った構想はあったにもかかわらず、それが表現されないままに、デザインアップされ、デビューとなった。マスコミも一斉にこれをとり上げた。それでも当時としては、新鮮な驚きと感動を与える完成されたメカデザインであった。しかし乍ら今回ばかりは、簡単には行かない大きな壁があった。

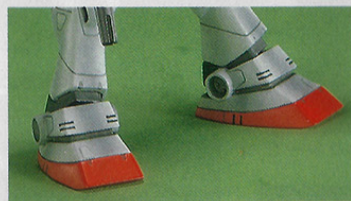


斜め後方より撮った正確かつ精密なディティール。塗装は接合部ラインを黒で仕上げるのが最高。

▶ 新生 / RX-78 ガンダムのプロポーションだ。HGの名称に恥じない完璧な仕上がり。モデラー・新井氏の手により更にディティールアップ。

▶ 足首は、MSジョイントにより、自由可動。フリーなアクションポーズが楽しめる。

▶ 頭部自由可動。アップにも充分耐え得る精密な表現の上半身。塗装で工夫すれば更に迫力。実物を彷彿。



原邦男氏も大へん。「このために過去10年市場に出廻ってる資料文献を全部ひっくり返し検討、同一のデザインになってはいけなくと、1コのモビルスーツに



た。1/144スケールという枠の中で、初代のガンダムで表現しきれなかったディティールやアクション等を、現在の高度な技術を駆使して可能な限り表現しなければならぬし、また設定にしても初代ガンダムのイメージを踏襲して、更に今風に進歩したデザインでなければいけないという厳しい注文がつけられている大河

これだけ神経を使った記憶もあまりない」と氏は語った。それもやはり、数々の神話を産んだ超人気キャラ「ガンダム」であるが故に、自然に力が入ってしまうのも無理からぬ事であった。こうして全国のファンからの「ノーマルガンダムの再開」という怒濤のシュプレヒコールは、ついに実現へと動き出した。平成元年の秋、新生ガンダムのデザイン完了。即、設計進行。そして成形技術の粋を集めた多色成形のテクニクをふんだんに盛り込んだかってない精密なディティールとアクションで再現された“究極のガンダム—High Gradeガンダム”は誕生した。多くのモデラー達の熱い眼差しを浴びながら、1990年、新しいガンダムプラモデルの歴史の1頁が開かれようとしている。

SYSTEM INJECTION (注1)

当社の誇る多色成形技術により、極限にちかいくまで各パーツを色分けしました。この技術により、組み立てるだけで、ほぼRX-78のイメージカラーどおりに仕上がります。 PAT.P



MSジョイント II (注2)

このジョイントは、MSジョイントの改良発展型です。多色成形機で性質の違う樹脂を使用し、腕・肩・脚・腰の各関節がボールジョイントや二重関節構造になって組立て済み成形。又、手首もボールジョイントになっていますので、いろいろなアクションがたのしめます。

